

2015年3月期（第52期）第2四半期 決算説明資料

2014年12月

株式会社 AOI Pro.

Creative Native

AOI Pro.

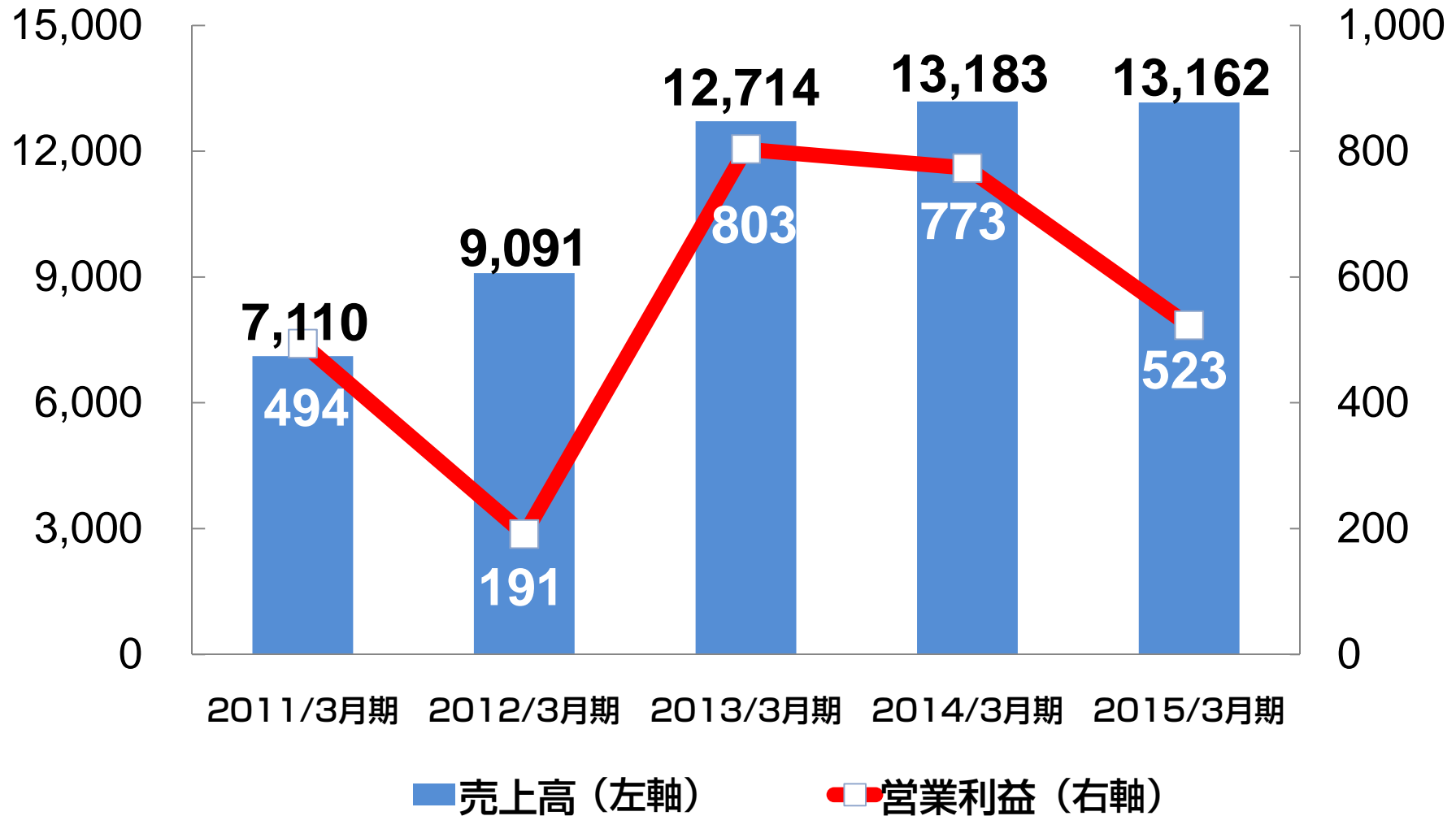
1. 連結決算概要（第2四半期累計）
 - ・売上高と営業利益の推移
 - ・損益計算書（前年同期比、業績予想比）
2. セグメント別の業績
 - ・広告制作事業
 - ・受注高と受注残高の推移[連結]
 - ・四半期売上高推移[連結]
 - ・広告主の業種別売上高[単体]
 - ・「CM作品以外の映像・WEB制作等」作品紹介
 - ・写真スタジオ事業
 - ・メディア関連事業
3. 連結業績予想（通期）
 - ・売上高推移
 - ・2014/3月期連結業績予想(グラフ)
 - ・2014/3月期連結業績予想(表)
 - ・中期経営計画連結指標の達成状況

4. 中期経営計画への取組み状況
 - ・外部環境の変化と広告市場動向
 - ・動画広告市場の動向
 - ・環境と市場を踏まえたこれまでの取組み
 - ・新たな強みの創造
 - ①TVCMおよびWEBムービー制作事業
 - × 動画コンテンツマーケティング事業
 - ②グローバルなネットワークの構築
 - ・AOI ASIAの売上高・営業利益推移
5. 株主還元
 - ・配当政策の方針
 - ・株主優待制度の新設
 - ・株式データ

- 1. 連結決算概要（第2四半期累計）**
2. セグメント別の業績
3. 連結業績予想（通期）
4. 中期経営計画への取組み状況
5. 株主還元

売上高と営業利益の推移

(単位：百万円)



連結決算概要(第2四半期)

AOI Pro.

- 業績予想対比では、売上高が予想を下回り、利益面でもこれに加えてメディア関連事業の利益が予想を下回った

(単位：百万円、%)	2014/3月期 第2四半期		2015/3月期 第2四半期		前年同期比		業績予想比		
		売上高比		売上高比	増減額	(%)	増減額	(%)	
	売上高	13,183	100.0%	13,162	100.0%	△ 21	△0.2%	△ 838	94.0%
※	売上原価	10,730	81.4%	10,794	82.0%	64	0.6%		
	売上総利益	2,452	18.6%	2,367	18.0%	△ 85	△3.4%		
	販管費	1,678	12.7%	1,844	14.0%	166	9.8%		
	営業利益	773	5.9%	523	4.0%	△ 250	△32.3%	△ 277	65.5%
	経常利益	722	5.5%	516	3.9%	△ 206	△28.4%	△ 224	69.9%
	税引前利益	757	5.7%	409	3.1%	△ 348	△46.0%		
	当期純利益	273	2.1%	102	0.8%	△ 171	△62.7%	△ 228	31.0%

※返品調整引当金考慮後

1. 連結決算概要（第2四半期累計）
2. **セグメント別の業績**
3. 連結業績予想（通期）
4. 中期経営計画への取組み状況
5. 株主還元

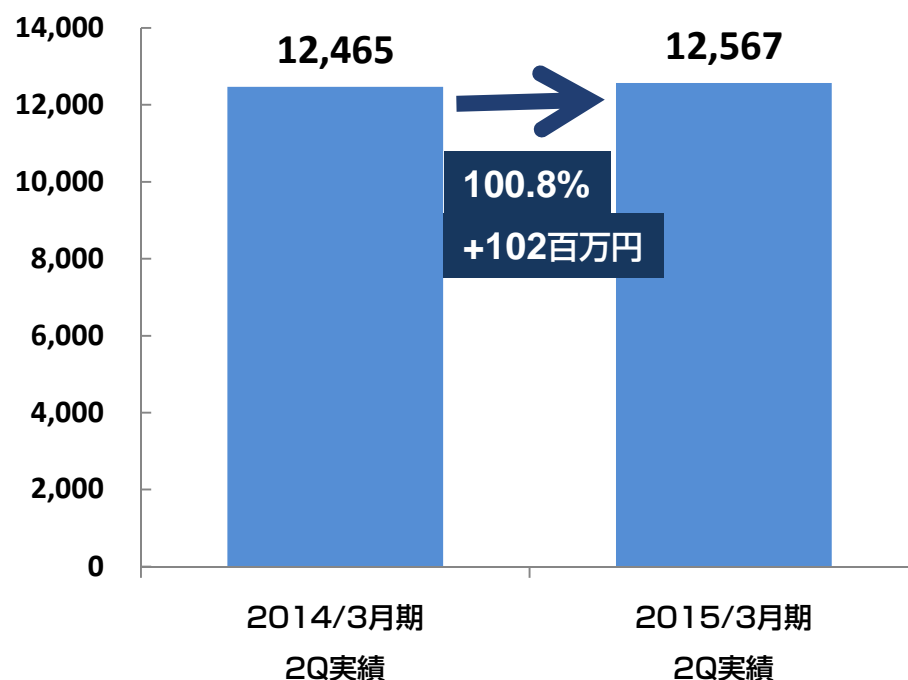
セグメント別：広告制作事業売上高・経常利益

AOI Pro.

- わが国の経済の動きを反映し、広告需要は一時的な落ち込みが見られたが、その後、緩やかな改善傾向にあり、売上高は前年同四半期比微増
- 一方、セグメント利益は、人件費の自然増やグループ拡大によるコスト増等により、前年同四半期比、減少

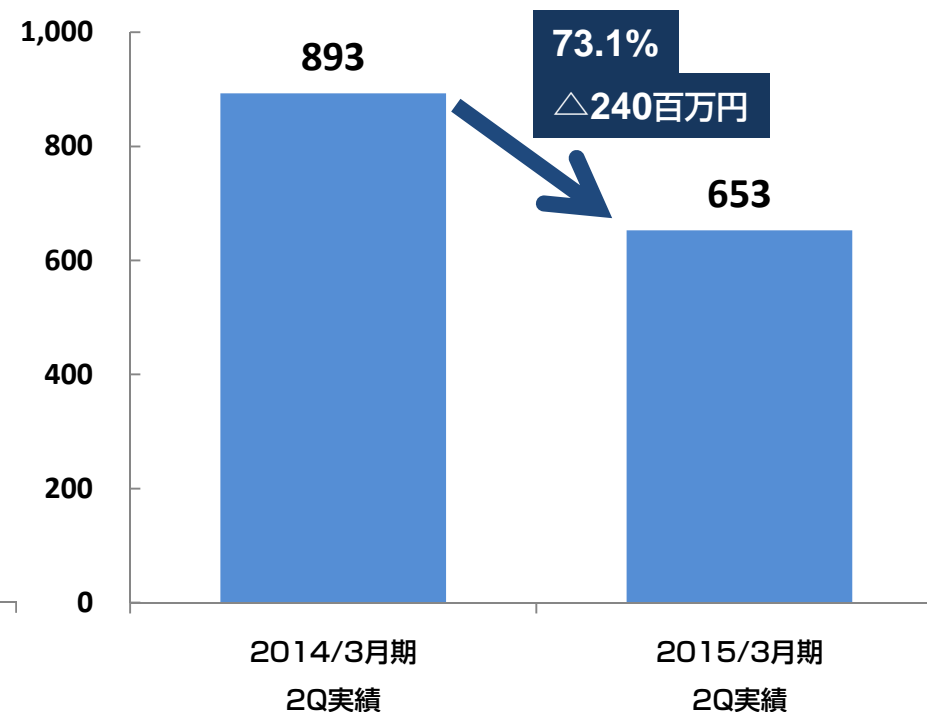
セグメント別：広告制作事業売上高

(単位：百万円)



セグメント別：広告制作事業経常利益

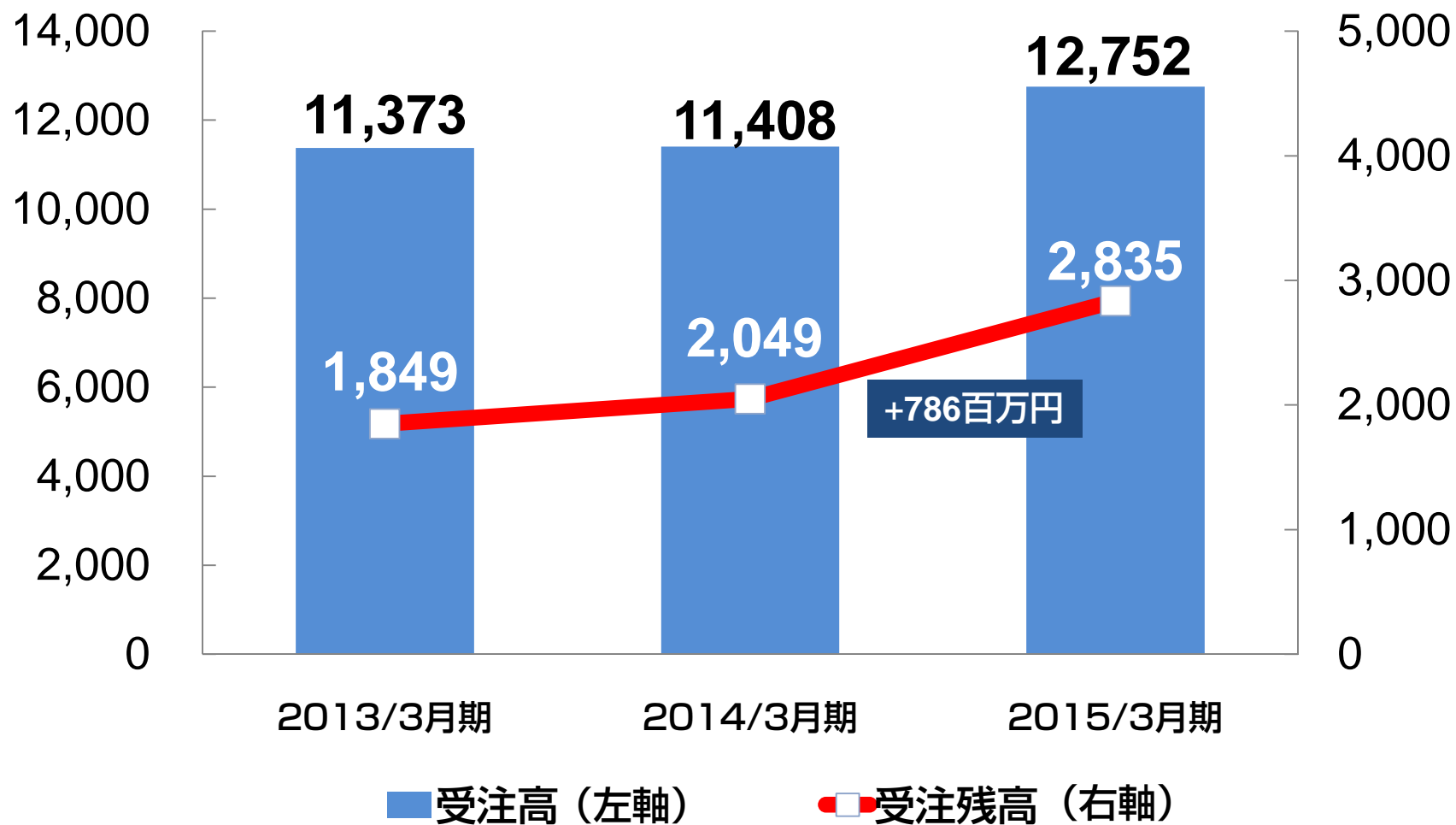
(単位：百万円)



受注高と受注残高の推移

- 第2四半期連結累計期間の受注高、期末の受注残高ともに、前年同四半期を大きく上回る

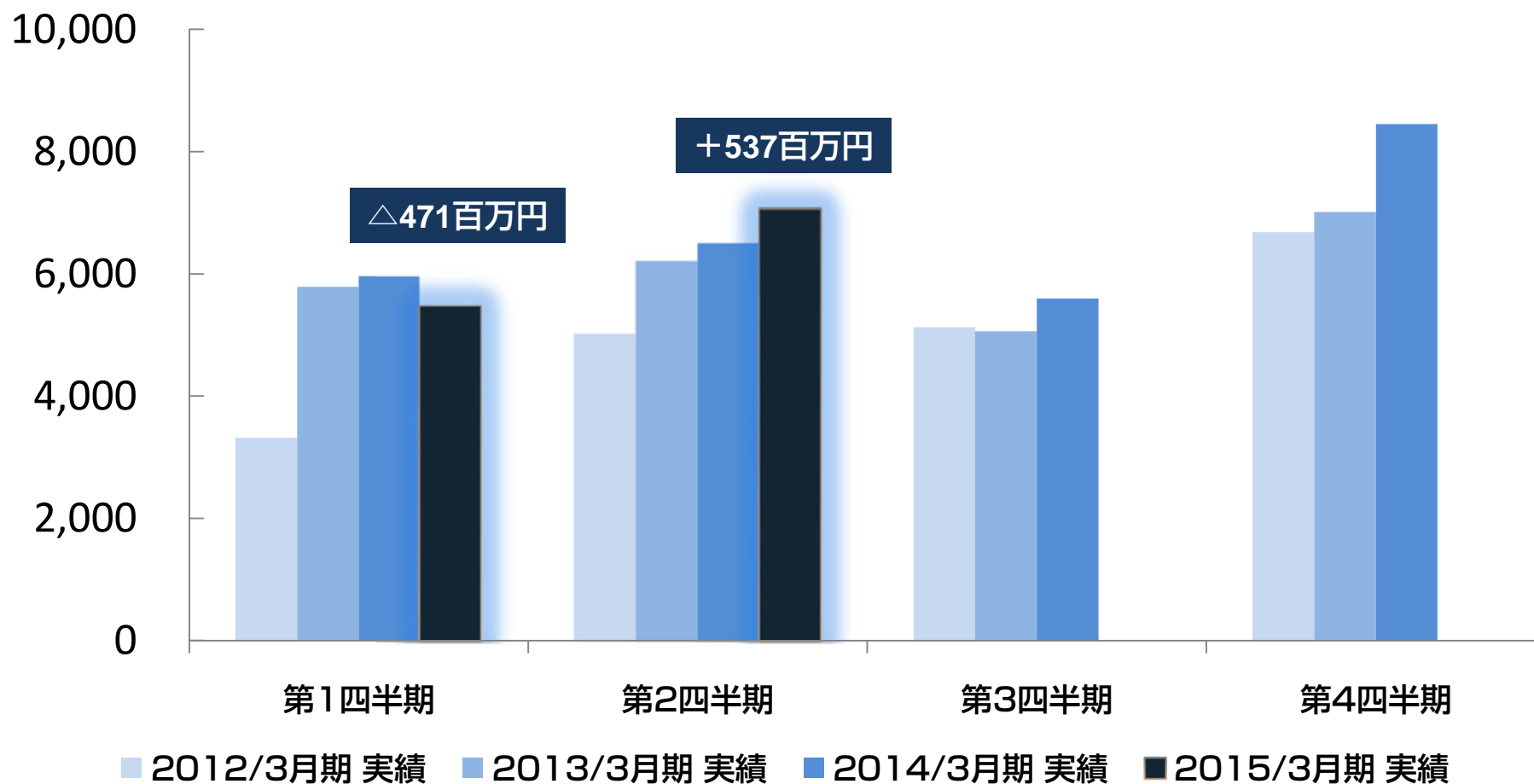
(単位：百万円)



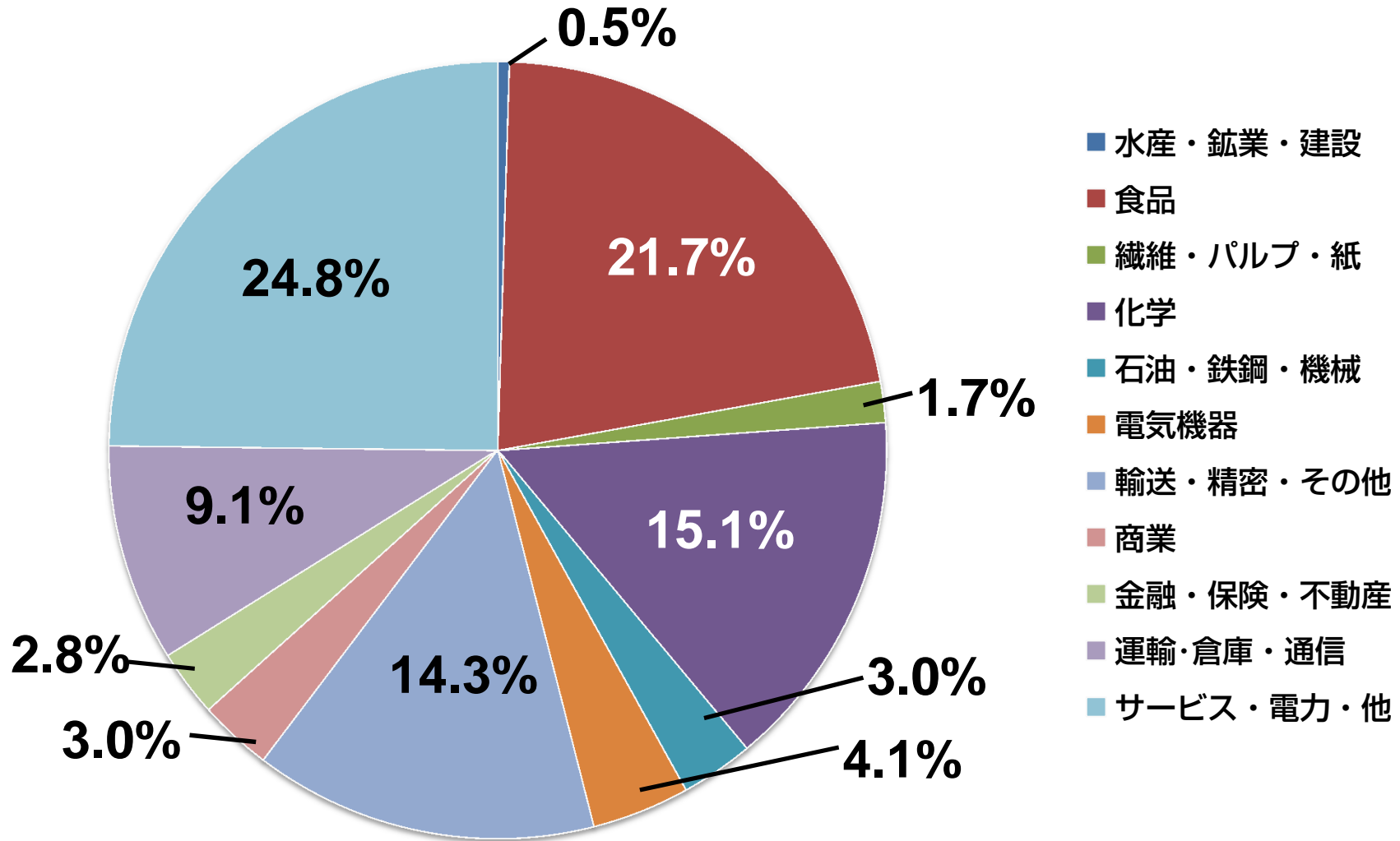
四半期売上高推移

- 第1四半期は前年同四半期を下回るも、第2四半期は上回り、増加傾向にある

(単位：百万円)



広告主の業種別売上高 [単体]



「CM作品以外の映像・WEB制作等」 作品の紹介 AOI Pro.

WEBムービー

ヤフー株式会社 企業
「なんでも答えます。」シリーズ



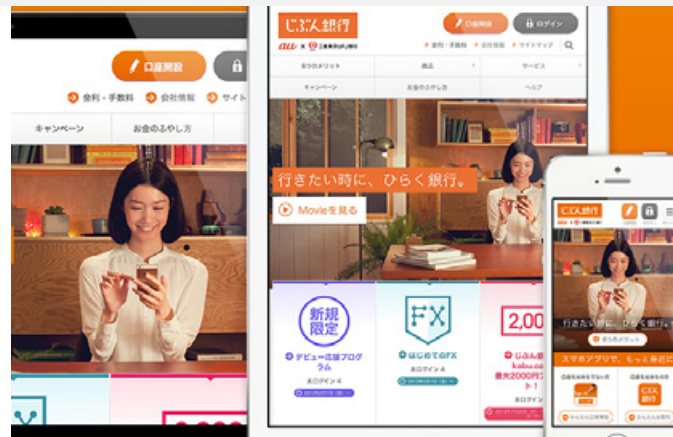
テレビドラマ

小泉今日子原作 『戦う女』
当社出資・制作、フジテレビNEXT ライブ・プレミアム



WEB制作

株式会社じぶん銀行
WEBサイトリニューアル



映画

2014年8月15日全国ロードショー
『TOKYO FANTASY SEKAI NO OWARI』
当社出資・制作、東宝映像事業部配給映画



セグメント別：写真スタジオ事業

AOI Pro.

hollyhock

当社グループの映像制作ノウハウを活かした
ハイクオリティサービスの提供をコンセプトとする
初のB to C事業

▶ コンシューマ向け写真スタジオ運営事業

2010年 9月：六本木東京ミッドタウンに1号店オープン

2012年 5月：自由が丘に2号店をオープン

2014年 4月：横浜ベイクォーターに3号店をオープン

2014年12月：港北みなもに4号店をプレオープン



AOI Pro.ブランドの認知度向上に貢献

東京ミッドタウン店



自由が丘店



横浜ベイクォーター店



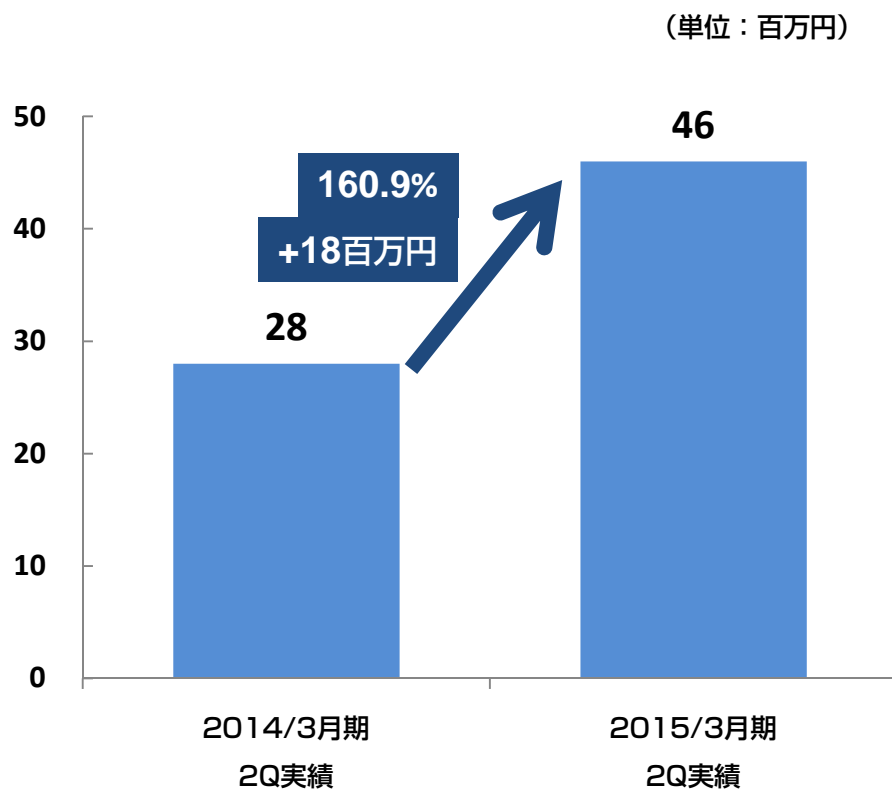
写真データ&ブック



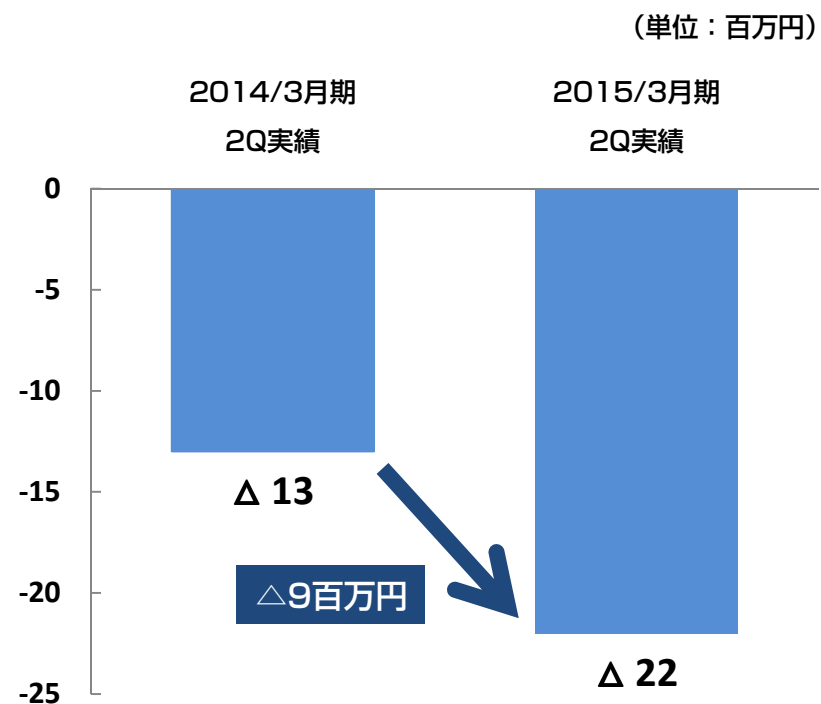
セグメント別：写真スタジオ事業売上高・経常利益

- 新店出店により売上高は前年同四半期比増加するも、セグメント損失はオープン時の経費負担等により増加

セグメント別：写真スタジオ事業売上高



セグメント別：写真スタジオ事業経常利益



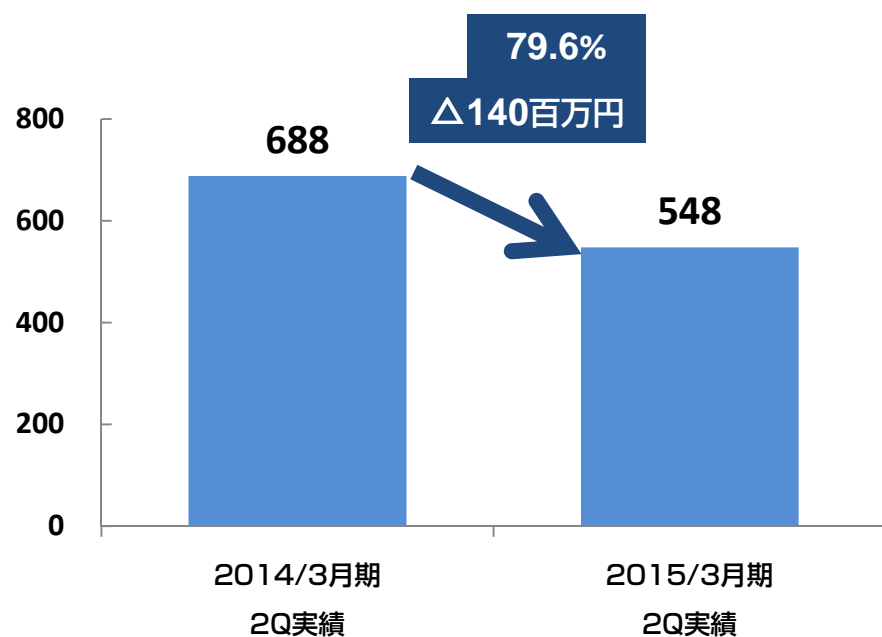
セグメント別：メディア関連事業売上高・経常利益

AOI Pro.

- 雑誌売上の減少や消費税率引上げに伴う広告収入の反動減等により、売上高は前年同四半期比減少するもセグメント損失はコスト削減により減少
- 本事業については、平成26年10月1日に事業譲渡を行い、当該連結子会社2社の解散及び清算を決定済み。これに伴い、当第2四半期連結累計期間の決算において、事業整理損6千6百万円を計上

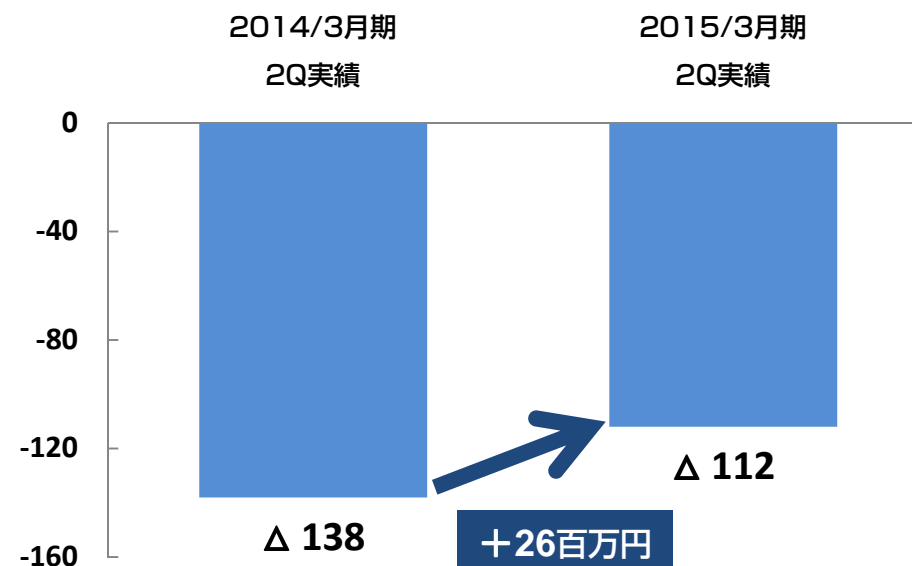
セグメント別：メディア関連事業売上高

(単位：百万円)



セグメント別：メディア関連事業経常利益

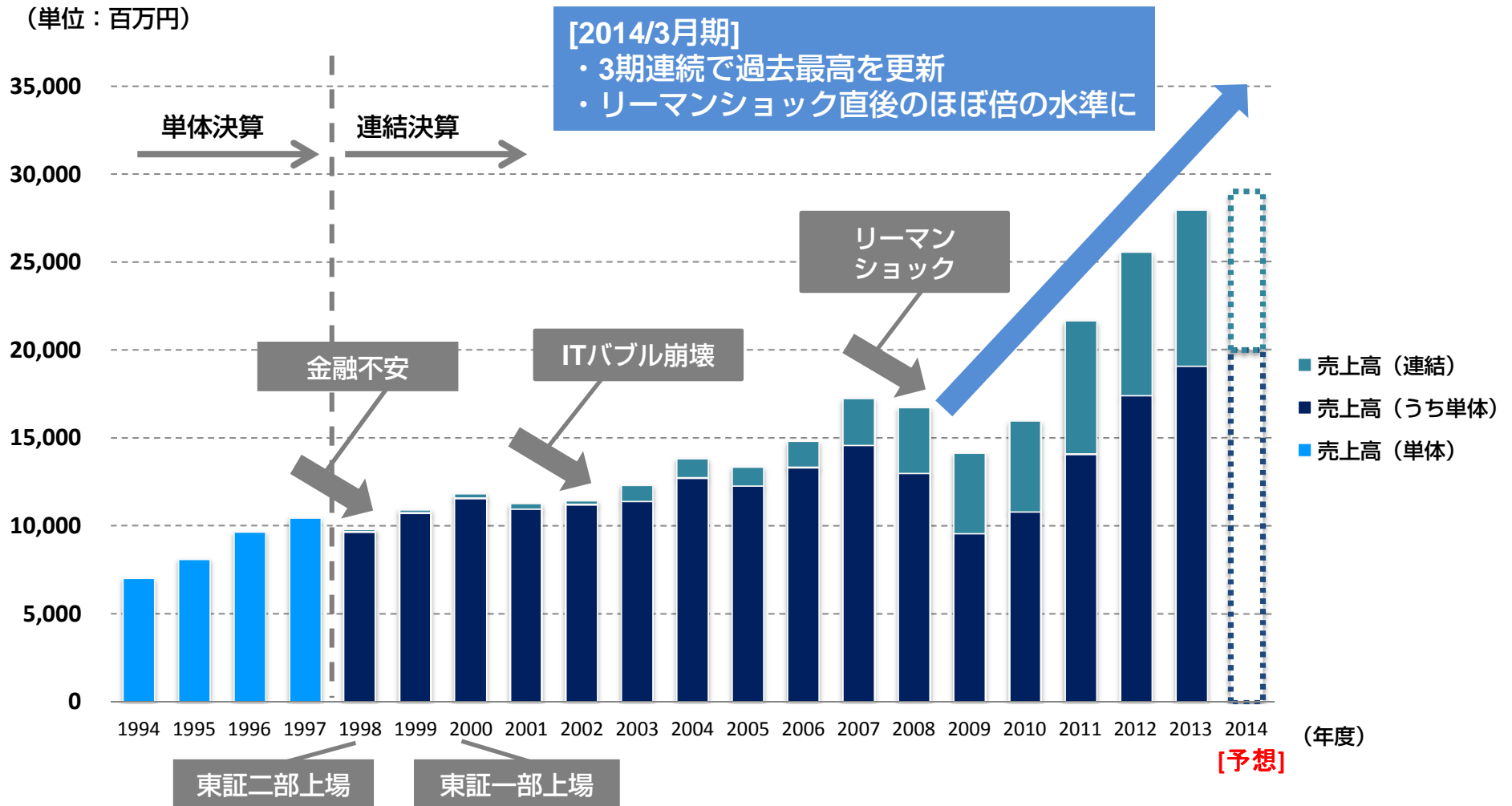
(単位：百万円)



1. 連結決算概要（第2四半期累計）
2. セグメント別の業績
- 3. 連結業績予想（通期）**
4. 中期経営計画への取組み状況
5. 株主還元

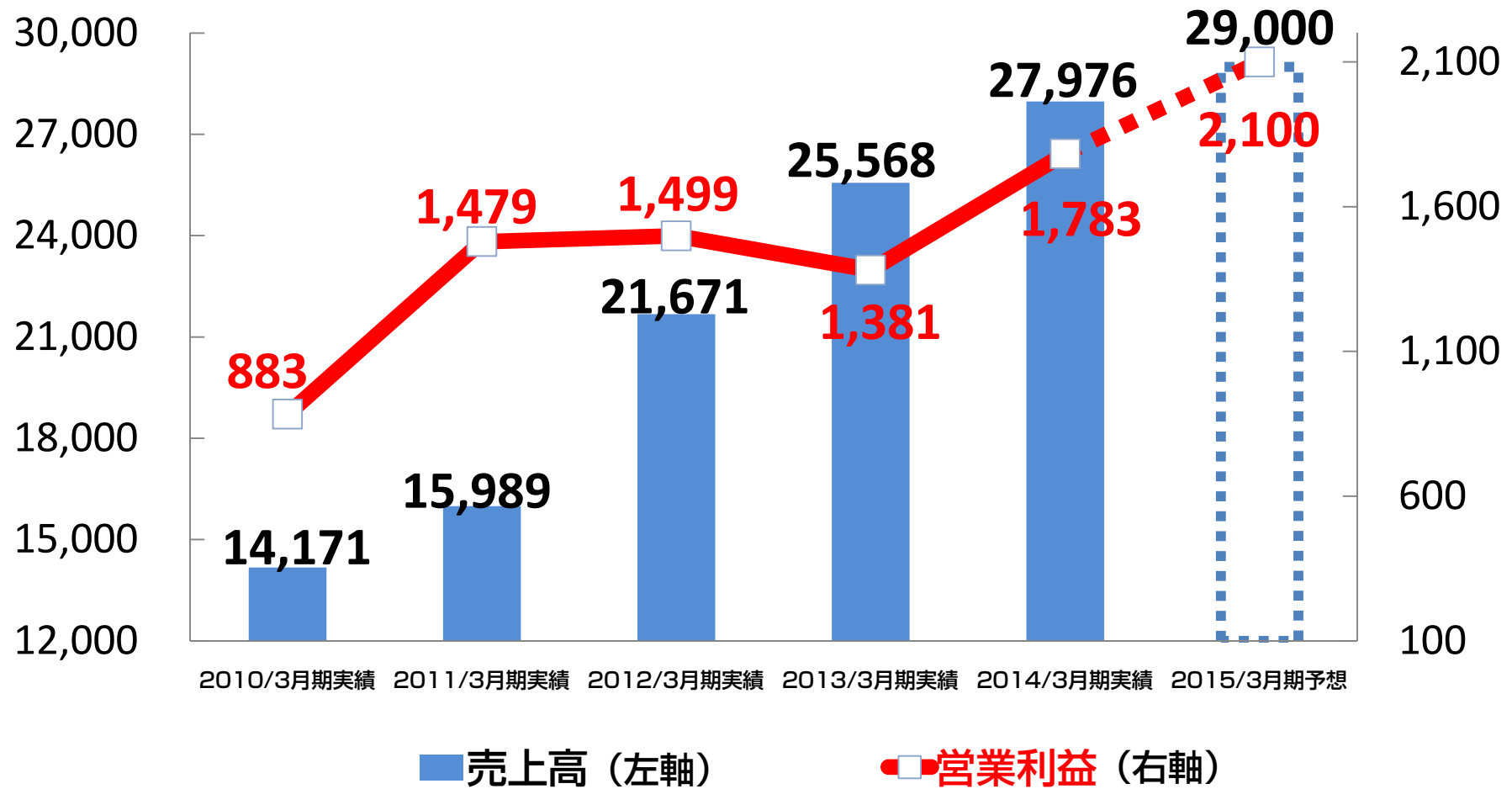
売上高推移

- 設立以来、基本的には右肩上がりの成長を維持
- 直近ではリーマンショック後、V字回復し、今期も過去最高を更新する予想



売上高と営業利益の推移

（単位：百万円）



連結業績予想（通期）

- メディア関連事業の事業譲渡・会社清算決定により、11月4日に期初予想を修正。当社が繰越欠損金を引継ぎ、税額減少が見込まれること等により、当期純利益を上方修正
- 広告制作事業における第2四半期連結会計期間末の受注残高が、前年同四半期末を7億8千6百万円上回っており、受注状況は好調なことから、下期は売上高増加を見込む

(単位：百万円、%)

	2014/3月期	2015/3月期			2015/3月期下期		
	実績	予想	期初予想比	前期比	予想	上期比	前年同期比
売上高	27,976	29,000	△ 1,000	1,024	15,838	2,675	1,043
営業利益 (営業利益率)	1,783 (6.4%)	2,100 (7.2%)	0	317	1,576	1,052	566
経常利益	1,704	2,000	0	296	1,483	966	501
当期純利益	645	1,300	400	655	1,198	1,095	826

中期経営計画連結指標の達成状況

AOI Pro.

指標	目標	2014/3月期 実績	2015/3月期 予想
連結 売上高	300億円 (2017/3月期)	279億円	290億円
連結 営業利益率	9.5% (2015/3月期)	6.4%	7.2%
連結 ROE	10.0% (2015/3月期)	6.5%	12.2%

1. 連結決算概要（第2四半期累計）
2. セグメント別の業績
3. 連結業績予想（通期）
4. **中期経営計画への取組み状況**
5. 株主還元

外部環境の変化

メディアの多様化

4マス[※] + ネットを中心とした
デジタルメディア

※4マス=TV、新聞、雑誌、ラジオ

デバイスの多様化

TV + スマホ、タブレット、
デジタルサイネージ等

広告市場動向

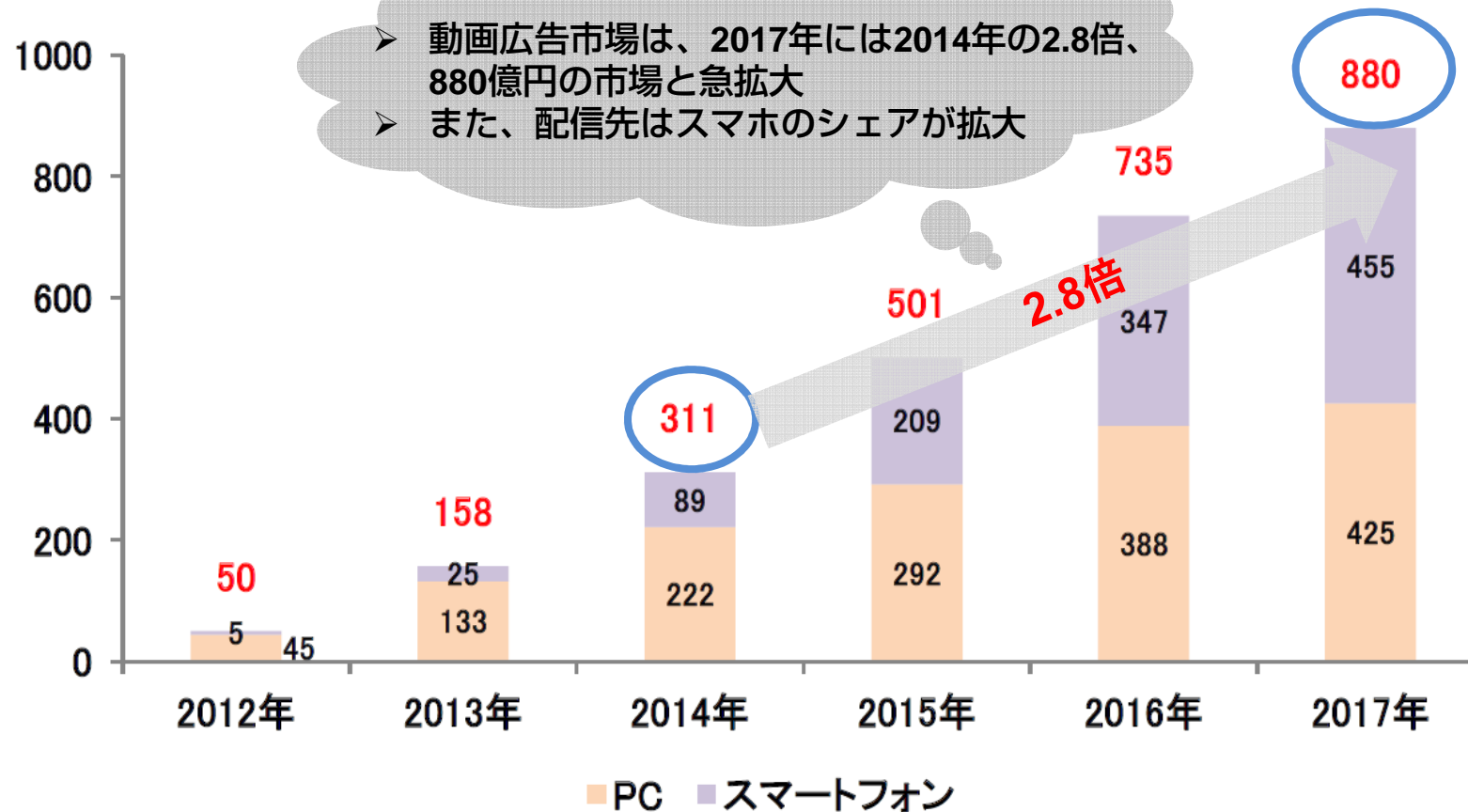
1. 日本の総広告費は2年連続で増加、成長軌道へ、TVCM制作費も増加
(2013年 2,147億円 前年比7.9%増)
2. 動画を活用した運用型広告も増加
インターネット広告制作費も増加
(2013年 2,178億円 前年比6.2%増)
3. 世界の総広告費 (2014年~2017年)
毎年+4%、アジアは毎年+5%
(1,2:電通、3:eMarkter等の発表より当社調べ)

- 広告市場は増加傾向にあり、TVCM制作マーケットも堅調に推移
- 一方、デバイスの多様化により、ネットを中心に映像に対するニーズは高まっていく

動画広告市場の動向

【動画広告市場規模推計・予測<デバイス別>(2012年ー2017年)】

(単位:億円)

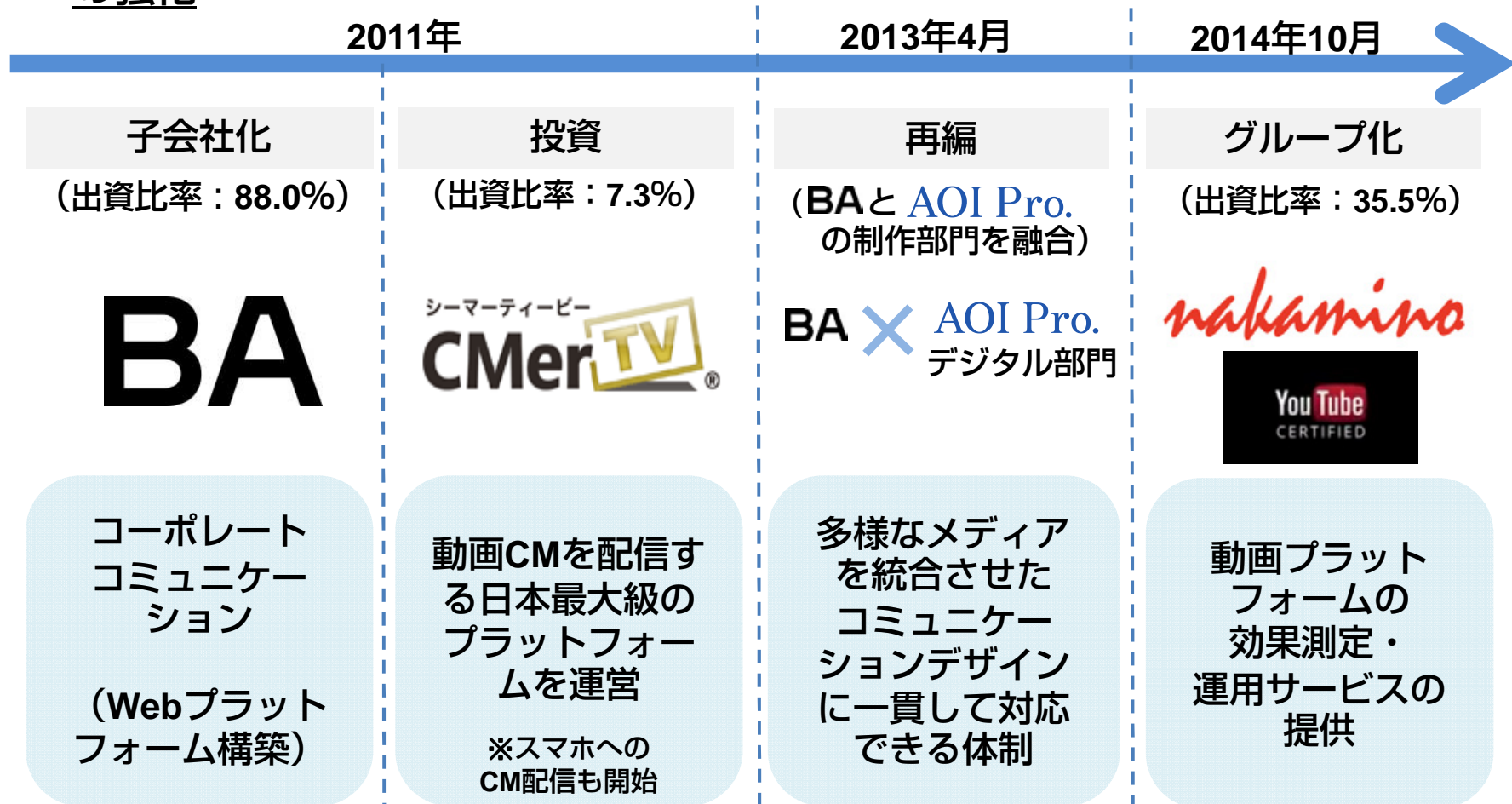


〈サイバーエージェント / シード・プランニング調べ〉
Copyright © CyberAgent, Inc. All Rights Reserved.

環境と市場を踏まえたこれまでの取組み

AOI Pro.

- M&Aを通じたデジタル部門の再編・強化
- TVCMおよびWEBムービーの制作事業 × 動画コンテンツマーケティング事業の強化



新たな強みの創造①

AOI Pro.

- TVCMおよびWEBムービーの制作事業×動画コンテンツマーケティング事業の本格展開に向けたグループソリューション力を強化

TVCMおよびWebムービーの制作事業

AOI Pro.



Wasa-be



予算と時間をかけて圧倒的なリーチを稼ぎ、拡散を狙う

動画コンテンツマーケティング事業

BA × *nakamino*

企画・制作・データ解析のPDCAサイクルをワンストップで提供し、企業とのエンゲージメントを高め、マーケティングに活用する

シーマーティービー

CMerTV®

広告動画配信プラットフォーム

グループソリューション力を強化

グローバルなネットワークの構築

- 2011年9月ジャカルタへの現地法人設立をスタートとして、海外の各拠点を線として結ぶ体制を構築、東南アジアを中心とする海外戦略を加速化
- 2013年4月には「北京葵友広告有限公司」を株式取得により子会社化し、ネットワークを充実

2013年2月 バンコク
⇒東南アジア諸国の案件を
カバーするハブプロダクション

2013年4月 北京
⇒TVCM制作プロダクション
(海外協力会社を子会社化)
※協力会社として上海にも拠点あり

2012年11月 シンガポール
⇒アジアの地域統括会社

2011年9月 ジャカルタ
⇒TVCM制作プロダクション

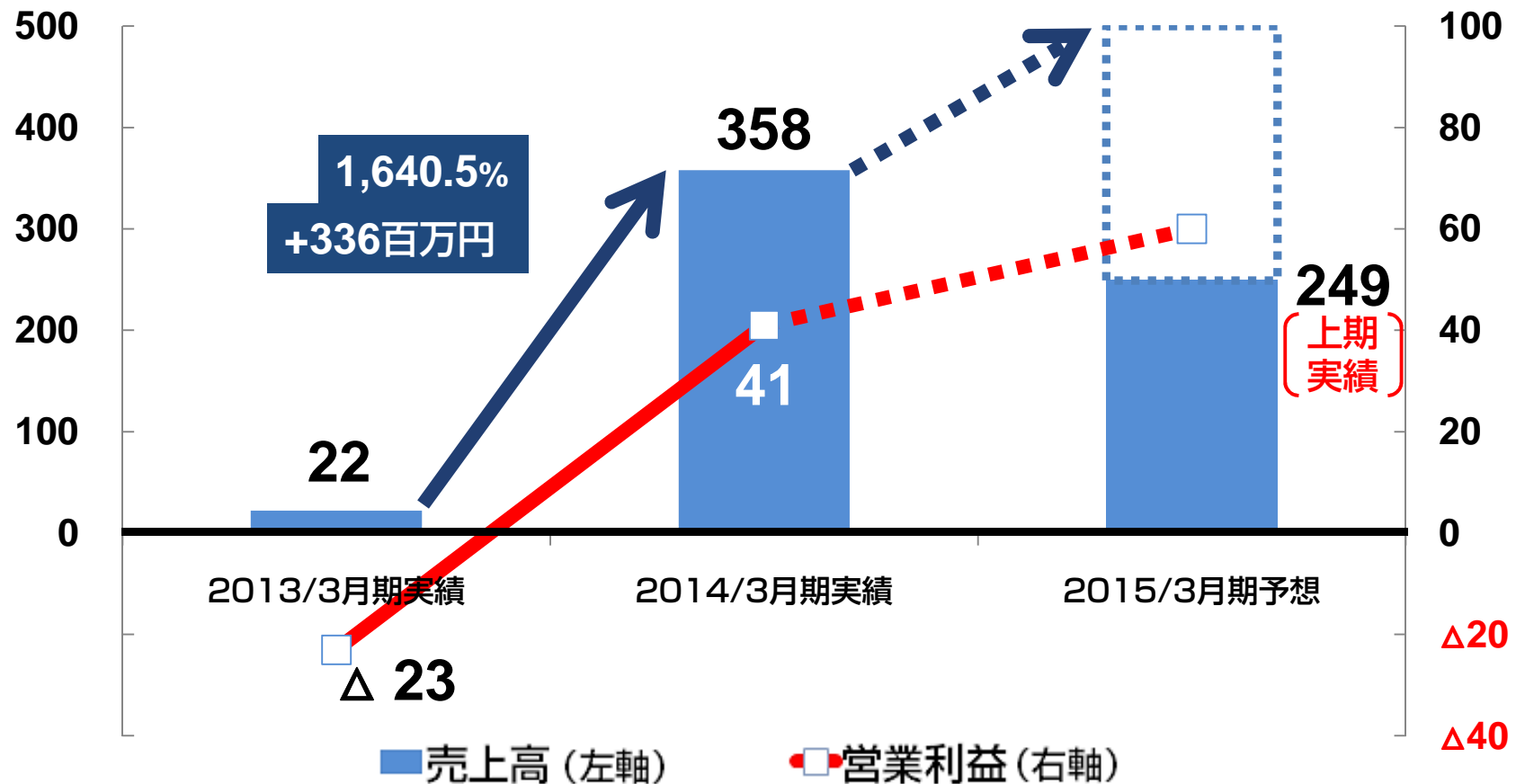
AOI Pro.

AOI ASIAの売上高・営業利益推移

AOI Pro.

- 前期、バンコク・北京拠点の設立により売上が大幅に拡大し、黒字化した
● 今期も増加傾向
- 日系クライアント・広告会社の広告動画制作のニーズは高まる傾向にあり、
3年後に売上高10億円を目指す

(単位：百万円)



1. 連結決算概要（第2四半期累計）
2. セグメント別の業績
3. 連結業績予想（通期）
4. 中期経営計画への取組み状況
5. **株主還元**

〈利益配分の基本方針〉

- 経営基盤と財務体質の強化を図るとともに、株主の皆様に積極的、かつ継続的に利益還元を行う方針
- 配当に関しては今後の収益予想を踏まえ、当面以下のとおり実施
 - ① 配当性向 30%以上
 - ② 1株当たり年10円以上

〈配当実績・予定〉

- 2014/3月期 (実績)

普通株式	1株当たり年間配当金	23円 (含、記念配当3円)
	うち中間配当金	7円

- 2015/3月期 (予定)

記念配当を含まず、前期同様の年間23円を予定

〈配当の状況〉

	2011/3月期	2012/3月期	2013/3月期	2014/3月期	2015/3月期
	実績	実績	実績	実績	予定
1株当たり当期純利益	30.43円	56.88円	26.15円	53.90円	106.20円
1株当たり配当金	20円	20円	23円	23円	23円
配当性向 (連結ベース)	65.7%	35.2%	88.0%	42.7%	21.7%

株主優待制度の新設

AOI Pro.

〈内容〉

① QUOカード贈呈

当社株式保有株数に応じてオリジナルQUOカードを贈呈いたします。

保有株数	QUOカード
500株以上	2,000円分
2,000株以上	5,000円分
5,000株以上	10,000円分

② 撮影付オリジナル写真集の作成

ご応募いただいた優待対象の株主様の中から、抽選により10名の株主様にオリジナルの写真集を作成いたします。AOI Pro.グループの(株)ホリーホックが、株主様ご本人とご家族またはご友人と一緒に写真撮影を行い、オリジナル写真集にしてお渡しいたします。



オリジナル写真集

〈株主優待対象者〉

毎年9月30日現在の当社株主名簿に記載または記録された5単元(500株)以上保有されている株主様を対象といたします。

(①は優待対象の方全員、②はご応募された方の中から抽選で10名様)

株式データ

AOI Pro.



●出来高 (1日当たり平均)

13,009株 (6~8月)



29,105株 (9~11月)
※9/25を除く

●株主数

3,149名 (3月末)



4,114名 (9月末)

●時価総額

83.1億円 (5月末)



98.4億円 (11月末)

純資産
103.7億円 (9月末)

当資料には、当社の計画と見通しを反映した将来予想に関する記述を含んでおります。

かかる将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否等、不確実な要因の影響を受けます。

従いまして、実際の業績はこの資料に記載されている将来予想に関する記述とは大きく異なる場合があることをご承知おきください。

また当社は、この資料の開示後において、かかる将来予想に関する記述を更新して義務を負うものではありません。